

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401657		
法人名	有限会社 パートナー		
事業所名	グループホーム「さくらはうす」		
所在地	〒859-2202 長崎県南島原市有家町山川21番地 (電話)0957-76-8500		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階 建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	2,500円+その他実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	泉川病院・よしだ歯科クリニック・内田医院・しるの医院・公立新小浜病院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、住宅地の一画に融合するかのごとく位置している。入居者の身体を配慮し、角がない優しい作りであり、自動通報装置やスプリンクラーを設置し、安全面に尽力している。施設長の方針が職員や入居者に浸透しており「やってみる」を大切に行動力があり、リビングや廊下でレクレーション・ラジオ体操・踊り・歌と活動的である。年長者の入居者を中心に、月に1度は買い物から調理を行い、自信と活力の引き出しに繋げている。又、毎月ケアプランの見直しを実施し、常に入居者を生活の中心としている。訪問時は友人と居室で語る方、リビングで声高く笑いながら話している方等、生活をエンジョイしている姿を垣間見る事が出来た。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を質の向上の一環として考え、改善点を真摯に受け止め改善計画シートを作成し、申し送りノートは個別に書き、マーカーで色分けし記す事で状況把握が一目で分かる書式となる様、工夫をしている。又、服薬支援を正確に行う取り組みや地域との交流等、出来る事から確実に改善を実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全職員に配布し、記入後、施設長が集約し、実施項目を詳細に記述している。評価を受ける事で、ケアの統一や再確認が出来、質の向上に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は老人会長・家族の代表・市町村の代表・ホーム側(3名)が参加し、不定期に開催している。家族の代表は、全員に声掛けし交代で参加しており、数回開催する事で、運営推進会議の方向性や意義について検討中である。今後は、入居者が生活していく上でホームの向上に反映出来る会議を念頭に置き、次の会議内容の質問事項の提示(市町村の代表・警察・消防署等)による内容の深い討議や、地域資源の利用方法や食事の試食会等、形式にこだわらない独自のアイデアで有意義に活用される事が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	さくら通信(毎月発行)でホームの様子を家族に知らせている。又、介護計画書を毎月見直し、入居者の状況を記述され、家族に送付し、要望を聞いている。玄関には意見箱を設置し、利用料の支払いで来られる家族の人には、必ず話し掛け、傾聴の意向を常に伝えている。又、申し送りノートには、家族の面会(月2回以上)や言葉を書き込み、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	住宅地にある為、散歩や買い物時に庭先で、世間話をする事がある。小・中学生の体験学習の受託や、保育園児の訪問・ボランティア・慰問を受け、自然体で地域の方との交流を図っている。又、入居者の居室に毎日、囲碁を楽しみに来られる地域の方もいる。

2. 評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「みんな笑顔で、思いやりをもって、声をかけあい、ひとつひとつの時間を大切にすごしましょう」とし、地域の一員として、安心・尊厳・安全を保持しながら笑顔で過ごす事を大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	以前の理念は分かりにくい為、職員が全員で入居者にどのように生活して欲しいかを考え、作り上げている。ホームの各所に掲げ、職員の名札に「笑顔がえし」の言葉と笑顔のキャラクター的な挿絵を取り入れ、裏に理念を書き、確認を取りながら共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅地の一画にあり、施設的な雰囲気は無く、一般家庭と融合しており、散歩や買い物時に庭先で世間話をしている。小・中学校の体験学習の受託や、保育園児の訪問・ボランティア・慰問を受け、自然体で地域の人との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員全員に配布し、記入後、施設長が集約し、実施事項を詳細に記述している。前回の評価に対し、改善計画シートを作成し、申し送りノートの充実・服薬支援・地域との交流等、出来る事から積極的に向上している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は老人会長・家族の代表・市町村の代表・ホーム側(3名)が参加し、不定期に開催している。家族の代表は、全員に声掛けし交代で参加している。現在、運営推進会議の方向性や意義について検討中である。		運営推進会議をどのように運営して行くかを検討する事は、容易ではないが、入居者が生活していく上でのホームの向上に反映出来る会議を念頭に置き、次の会議内容の質問事項の提示(市町村の代表・警察・消防署等)による内容の深い討議や、地域資源の利用方法や食事の試食会等、形式にこだわらない独自のアイデアで、有意義に活用される事が期待される。

グループホーム「さくらはうす」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問や情報収集は気軽に電話や面談で行っており、顔見馴染みの関係である。現時点では密接とは言えないが、状況に応じた連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事や出来事を載せた、さくら通信(毎月発行)や、介護計画書に入居者の様子を書き込み、利用料と一緒に毎月送付し、来所時にも伝えている。金銭管理は請求書と領収書を一緒に送付し、控えをホームで管理し、授受を明確にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、毎月、介護計画に家族の要望欄を作る事で意見の聴取を行っている。家族の訪問は頻繁で(最低で月2回以上)話された事は申し送りノートに記録し、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、勤務は職員の都合を全面的に取り入っている。又、一緒に行事の打ち上げをしたり、コミュニケーションを取り、離職を最小限にする事を心掛けている。新入職員は、慣れた職員に同行し、入居者には個別に挨拶をしている。夜間は入居者の心身面に配慮し、2人体制で互いの安心に繋がる取り組みを実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員の研修・実習の充実を目標とし、外部研修(希望者を募り、又は職務として参加)の受講(約年3回)をしている。知り得た情報は、スタッフ会議で共有を図っており、新人研修制度を決め、他ホームでの実習をする等、スキルアップに繋がる取り組みを実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研修会に加入し、バレーボール大会や研修に参加し交流がある。施設長が研修参加で知り合ったホームからの訪問を受ける事があるが、今後更に密接な交流を望んでいる。		現状に甘んじる事なく、尚一層の交流を望まれており、職員が交代で実践者研修参加・グループホーム交換研修・他ホームの訪問等、様々な構想があり、ホーム長・管理者・職員が一丸と成り、他ホームの優れている点や、自ホームの良さの再確認に繋がる取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院退院時の入居希望者が多く、電話による情報交換を行っている。お互いが検討し家族がホームを見学し、ホームの現状を説明され、納得しての利用に繋がっている。又、入居後は家族や知人の協力を得て、入居者が安心して生活出来るように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は活発であり、料理の味付け・風習や行事・歌等教わる事は多々あり、人生の先輩としての知恵を引き出す会話に努め、思いを共感しながら一緒に生活している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者情報の自分史に入居後に知り得た情報を書き込み、生活歴の収集に努めている。日々の天気や状況変化に配慮しながら、入居者との会話で思いを把握し、希望に沿った支援に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の担当者を決め、スタッフ会議(毎月全員参加)で入居者一人ひとりを詳細に話し合い、家族の要望を取り入れ、サービス内容の実践可能な計画を作成し、家族の同意を得ている。しかし、介護計画は本人の意向の欄がなく、目標に取り入れているが明確ではない。</p>		<p>入居者がどのように過ごしたいかは介護計画の中心であり、入居者の主訴の記入欄を設けられる事が期待される。又、様々な書式の工夫が見受けられるが、計画に沿った日々の記録や、ケアの共有に繋がる生活歴・全体像の充実をされ、計画に反映される事が期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しを毎月実施し、特記事項に生活の気付きを書き、家族に送付して意見を聞いている。申し送りノートには個別に必要な事項を記述し、色分けしマーカーで記す事や、達成状況を把握するモニタリング表により状況把握が出来、スタッフ会議で検討して、現状に即した介護計画の見直しを実施している。</p>		

グループホーム「さくらはうす」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が地域の中で安定した生活を保持出来るよう、医療連携・往診(医師のボランティアによる)・通院介助・外食・訪問理容・書籍の宅配・重度化に伴う入院回避等、柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関を大切に、かかりつけ医による受診を実施しながら、必要時は協力医療機関のアドバイスや、2週間に1回は近隣の医師がボランティアで往診をしている。24時間相談・指導が仰げる関係を確立し安心へ繋げている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで1度、看取りを経験し、突然の事でもあり職員の精神面にケアをしてきた経緯がある。重度化に伴う方針の作成・終末期の入院回避への取り組みを明確にし、本人・家族・医師・ホームで相談しながら、実施していく方針であるが、重度化に伴う職員の関わりに関しての方向性が十分とはいえない。		重度化に伴い、職員がどのように関わるかは、ケア面・精神面において重要である。看取りに関する方針の理解と充実が必要であり、今後は、研修により意思統一や技術面の向上が期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報へ配慮し、職員と秘密保持の誓約書を交わし漏洩に注意している。日々のケアでは、異性に対する配慮・会話は耳元で、着替え等は見えない場所できるように心がけ、尊厳に繋がる取り組みを実践している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、ルールを決める事なく、イベントや好きな時の飲酒(状態を診ながら)・一人での買い物・趣味の会への参加・起床・就寝・入浴時間等、自由な生活を満喫出来るよう支援し、常に入居者を中心に生活している。		

グループホーム「さくらはうす」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1月に1回、入居者による食事の準備(買い物～調理)の日を実施しており、職員は見守りながら行っている。入居者・職員が食卓に着き、大家族のような食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は入浴を拒否する人は殆どなく、順番・時間(午前・午後のどちらでも良い)・温度等を工夫する事で、入居者は週3回入浴を楽しんでいる。入浴前にはバイタルチェックを行い、清拭に変更する場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者全員が体を動かし、働く事を基本として生活しており、年長者の働く姿を見て全員が実践している。買い物・生活全般の仕事・歌・本読み・囲碁・パソコン・書き物・習字等、積極的にしており、活力を引き出す支援が出来ている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活の一環として、買出しの日替わり商品に並ぶ事もあり、入居者も大切な人員を担っている。イチゴ狩り・外食(おやつをファミリーレストランで)・足湯・地獄めぐり・花見等、外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長は入居者の安全面や精神面を考慮しながら、かつては施錠する事があったが、現在の入居者は安定しており、施錠を行う事なく、見守りや同行を行っている。一人で外出出来る人は、職員と同じ名札に「外出中」と書き(家族の許可を得ている)、ホームの連絡先を記入し、地域の人やタクシーの協力を得ながら、自由な生活を支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の参加により、年2回消火・避難訓練を実施している。今年度より自動通報装置・スプリンクラーを設置し、安全面の充実を図っている。又、携帯コンロ・ろうそく・懐中電灯を整備している。現在、夜間を想定した訓練や地震・水害等の災害に対する取り組みの実施はない。		昼・夜間を想定した火災・避難訓練に地域の消防団や近隣住民を巻き込んだ、訓練の実施を期待したい。又、地震や水害等の天災に対してのマニュアルや訓練の実施、それに伴う備蓄品や重要品の再確認が期待される。

グループホーム「さくらはうす」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	美味しい物を自分で食べる事を重点に置き、ミキサー・刻み・おにぎり(指で持てる大きさ)等で食べ易い配慮をしている。水分量は記録し、不足にならないように支援している。又、今後、専門家によるカロリーチェックを受ける予定である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅地の一画にあり、騒音はなく静かである。花壇があり、玄関は一般家庭と同じ雰囲気である。リビングは明るく、畳の部分があり、雛人形を飾り季節感を出している。家具や調度品は家庭的で、入居者が友人と語ったり、一人で過ごす場所を確保し、居心地の良い空間を提供している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多趣味(パソコン・囲碁)の人、書き物をする人、居室で友人と語る人、それぞれの居室にカラーがあり、生活感が滲み出ており、我が家として機能している。		